埋蔵文化財ニュース

2018年（平成30年）
7月吉日

富士市 市民部
文化振興課
富士市埋蔵文化財調査室

伝法 東平第1号墳　研究成果まとまる

珍しい「丁字形利器」出土

日本国内にわずか4例

東平第1号墳の発掘調査成果と研究成果をまとめた報告書が富士市教育委員会により刊行された。

東平第1号墳は、富士市伝法に所在し、平成元年に発見、同年、発掘調査が行われた古墳である。

発見から報告書刊行まで29年の歳月がかかったが、その分、研究は広く深く、意義のあるものとなった。

床面に武器や馬具などの副葬品が置かれた東平第1号墳の石室

東平第1号墳と周辺遺跡の位置

東平第1号墳は、7世紀中頃につくられたと考えられる古墳である。

亡くなった人を葬る横穴式石室の全長は約5メートル、石室内の広さは、奥行き4メートル67センチ、幅1メートル44センチ。石室の床には、河原石や溶岩を3回敷き重ねている。横穴式石室は何度も埋葬が行われる墓であり、東平第1号墳でも、少なくとも3回の埋葬が行われたものと考えられる。

石室内からは、大刀3振と多数の鉄鏃、轡や鐙といった馬具など、多くの副葬品が出土した。

そのなかで、最も注目される遺物が、「丁字形利器」である。

丁字形利器は、文字どおり、「丁」字形の刃部をもつ特異な形の武器であり、日本国内でも4例しか見つかっていない、珍しいものである。研究により、丁字形利器は高句麗（朝鮮半島北部）で用いられた武器を祖形とすることが明らかとなった。

東平第1号墳の出土品

朝鮮半島に起源をもつ武器を副葬品としていることから、東平第1号墳に葬られた人物は、朝鮮半島から渡来してきた人々と関わりをもつ人物である、と想定される。

東平第1号墳がつくられた伝法地区には他にも多くの古墳が築かれている。

丁字形利器と大刀はまとめて置かれていた

伝法沢川の東岸に6世紀後半につくられた中原第4号墳では、装飾品である玉類や、武器、土器とともに、馬具や農工具、鍛冶具など、多種多量の副葬品が出土した。これらの副葬品から、中原第4号墳に葬られた人物は、馬の生産や鍛冶生産などに長けた手工業生産者集団を率い、渡来系集団とも関わりをもつ有力者であったと考えられている。

また、国久保二丁目に存在する、7世紀初頭につくられた国久保古墳でも、鉄鏃や馬具とともに渡来系集団との関わりが想定される鉄鐸が出土している。

東平第1号墳は、中原第4号墳や国久保古墳に葬られた人物の役割を引き継ぎながら、軍事権ももつ、地域首長であったと考えられる。

東平第1号墳の調査・研究成果については、来年度、シンポジウムを開催する予定である。

特異な形の刃部をもつ「丁字形利器」